

# 石工の技術継承目指す 宇都宮



大谷アカデミー開講式に続いて開かれた公開講座＝1日、宇都宮市大谷町

## 大谷アカデミーが開講

大谷石の加工や施工を行う「石工」の技術を伝承しようとして創設された「大谷アカデミー」の開講式と公開講座が1日夜、宇都宮市大谷町の城山地区市民センターで開かれた。

住宅建材としての加工や歴史的建造物を修理する大谷石の石工は、高齢化や後継者不足が深刻な問題に。こうした危機感から、技術を長く継承しようと、大谷地区の石材業者らがアカデ

ミーを設立した。

受講生は女性2人を含む県内外の13人。職業は石材業者や会社員、空間デザイナーなどさまざま。年齢も21～62歳と多様な人材が集まった。この日は受講生11人が開講式に臨み、校長を務める藤本信義宇都宮大名誉教授や来賓の佐藤栄一市長から激励を受けた。

続く公開講座では、アカデミー事務局長で地元石材会社営業部長の飯村淳さんが、「観光と産業による地域活性化」と題して、大谷地区や大谷石材業の現状、今後の展望を解説した。

開講に当たって藤本校長は「集まったのは非常に意欲的な方々。技術の伝承のみならず、大谷石の新たな価値を創造できるよう期待したい」と話した。受講生で、家業の石材店で働く阿部将宗さん(28)は「仕事で大谷石の蔵や塀に関わることで、後継者が少なく

なっていると聞き興味を持った。技術を身に付けて、仕事の幅を広げたい」と意気込みを語った。

講座は1年間で、毎週火

曜日に座学、日曜日に実技を行い、受講生らは建築の専門家や現職の匠から直接指導を受ける。

(石幡愛)

とちぎ経済

政経部